

# 誠実

誠実 白心にまっすぐ生きる＝言行一致

よく考え 助け合って やりぬく

2016.07.07 No.15

北陵中学校生徒指導通信  
学校電話 0572-27-6068

七夕という行事は、織姫と彦星（織女と牽牛）の伝説がもとになっていて、中国や韓国でも節句の一つとなっているらしい。

伝説は、その物語のディテールが各国・各地で微妙に違う。だが、働き者の牽牛が織姫という美しい娘と出会い、相思相愛の末に結婚するが、やがて天帝にその仲を引き裂かれ、天の川をはさんだ、兩岸にそれぞれ追放され、1年に一度、7月7日の夜にだけ会うことを許されるというストーリーはおおむね共通している。現世と天空を結ぶ、甘美だが残酷な悲恋の物語だ。

そして、日本には、二人の逢瀬の日、7月7日に、細長い色紙である「短冊」に願いごとを書いて笹に吊すという習慣がある。江戸時代にはじまり、宮中行事に由来しているらしい。

だが重要なのは由来ではない。より重要なのは、短冊に願いごとを書いて笹に吊すというイベントが、政治・経済やイデオロギーが激変した近世以来の長い歴史の中で淘汰されず、現代に残っているということだ。

わたしは、七夕という行事が好きだった。わたしが幼い頃、まだ iPod も携帯電話も TV ゲームも DVD もない時代、7月7日になって、学校と家で、短冊に願いごとを書き、それを笹に吊すのが、とても楽しかった。真剣に願いごとを考え、誰にも見せずに、笹の細い枝に結びつけた。この行為には、大切なことが二つ潜んでいる。

**一つは、自分で自分の願いを把握するということだ。幼い子どもであれ、大人であれ、自分が何を願っているのか自ら把握している人は、いろいろな意味で人生を有利に生きる。**

**大切なことの二つ目は、「紙に書き記す」ということだ。感情や記憶や思考は、書き記すことによって、「確認」「記録」「伝達」などが可能になる。書き記すという行為は、確認・記録・伝達などと結びつく過程で、感情や思考を整理統合し、やがて無意識下に眠る自らの情報を掘り起こすという特別な行為に進化したのではないかとわたしは考えている。**

現代の日本では、家庭で短冊を吊るした笹を飾ることが少なくなった。七夕の日にはスーパーやコンビニエンスストアでビニール製の笹が売られるが、やはり味気ない。ただし、保育所や幼稚園や小学校では、必ず願いごとを書いた短冊を吊るした笹を教室に飾る。今でも日本の子どもたちは、七夕という行事を通して自分の願いを知り、それを紙に書き記すという非常に大切なことを知らず知らずのうちに学んでいる。しかも、その行事は、地球からはるか彼方、天空の伝説に基づいている。

七夕は、間違いなく世界でもっともロマンティックなイベントである。

『世界一ロマンティックな行事 七夕 - 文：村上龍 絵：はまのゆか（「JTE 日本の伝統行事」より）』

呼応の第Ⅱ期の仕上げとなってきています。各学年であいさつや服装、授業の向上に取り組んでいます。担当の生徒の声や響き、また、それに応える姿、応えきった事実が学年ワークスペースに掲示されています。

思うは招く。いつも願いを持って生活を送っていますか？今日は七夕。改めて、『なりたい自分』を思い描いてください。4月描いた自分と、今の自分と違っていても、まだまだこれからです。粘り強く、あきらめず…です。

次は、夏休みを含める第Ⅲ期となります。**第Ⅲ期は『挑戦』です。どんな自分になりたいのか、七夕の今日、改めて思い起こし、『なりたい自分』に近づく、挑戦していくことのできる夏休みにしましょう。**

**まずは、あと10日の生活を、仲間と共に、呼応を築き、充実させること！です。**

